

委託事業実施内容報告書
平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】
実施内容報告書

受託団体名： 総社市

1. 事業名称

- ・総社市地域参加型生活サポート日本語教育事業

2. 事業の目的

- ・地域に暮らす外国人住民が、日本人住民との交流を通して、日本での生活を円滑に行うために必要な日本語の習得とコミュニケーション能力の向上を図りながら、地域社会で暮らすために必要な生活情報・行政情報や、日本の文化・習慣に関する知識を得ることのできる場を設けるとともに、言葉の壁によって地域社会と孤立しがちな外国人住民の生活を、同じ地域に暮らす隣人としてサポートする人材を育成することにより外国人支援体制の基盤を作り、外国人住民が自立し、地域社会の一員として積極的に社会参加できるよう地域全体が支える多文化共生のまちづくりを目指す。

3・地域の実情・課題

- ・本市は H2 年以降、南米系外国人を中心とするニューカマーの来日により外国人住民が増加した地域であり、それ以前はほとんど外国人が居住していなかった。H20 年のリーマン・ショックによる経済危機により、市は大量の外国人失業者で溢れたが、その多くが日本語で日常会話すらままならないブラジル人・ペルー人だった。そのような危機的事態を迎え、外国人支援を含めた多文化共生推進施策を行う部署が H21 年に新設され、H22 年に文化庁委託事業により日本語教室が開設された。しかし、外国人支援体制はまだ十分構築されておらず、本市規模の自治体では、日本語を指導できる人材が乏しく、日本語の学習機会が極めて限定されており、本市が開設する日本語教室以外に日本語を学ぶ場所がほとんどないという問題を抱えている。また、文化庁委託事業による日本語教室の開設を通じ、小規模ながらある一定数の地域住民の間に、外国人への日本語教育の必要性や住民同士の交流を通じた相互理解の重要性が認識され始めたところではあるが、外国人住民と日本人住民との交流の機会も少なく、外国人支援の歴史が浅いうえ、地域社会における多文化共生意識も低く、外国人の存在や彼らを取り巻く様々な問題点が地域社会の住民に共有されていると言い難い状況である。さらに、ここ数年の間に南米系住民は漸減、一方、中国、フィリピン、インドネシアなどアジアからの外国人が増え始め、とりわけこの 1 年の間に、ベトナムからの技能実習生が急増するなど、総社市の外国人事情は大きな転換点を迎えている。外国人住民の多国籍化が顕著になり、日本語教育を含めた外国人支援に対するニーズが一層多様化してきている。今後の人口減少と労働力不足を鑑みれば、この傾向は続くと考えられ、とりわけ本市のような地方小都市において、地域産業を支える外国人就労者の存在は大きく、地域社会の安定的な労働力確保と地域活性化を考える時、地域社会で外国人を受け入れる施策としての日本語教育事業の意義は大きく、行政がリーダーシップを取り、国や地域を超えた多文化共生施策を推進するとともに、地域社会全体が外国人支援に関わる社会システムの構築を行うことは喫緊的課題と言える。

4. 事業内容の概要

- ・多様な機関等との連携・協力による日本語教育の実施として【取組1】「地域でつながる日本語教室」を、取組の成果の発信及び住民の日本語教育への理解の促進として【取組2】「地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修事業」を、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の体制整備の推進として【取組3】「地域コミュニティ連携防災訓練事業」、【取組4】「地域ではぐくむ子育て応援事業」、【取組5】「地域で働く外国人就労者の日本語教育支援に関する調査研究事業」を行う。これらの取り組みを通し、本市の多文化共生施策を推進するとともに、継続的な外国人支援体制を地域に根付かせるための基盤作りとシステム構築を行う。
- ・実施期間：平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月（12 か月間）

5. 事業の実施体制について

- ・本事業すべての取り組みにおいては、コーディネーターである岡山大学大学院准教授が、事業主体である総社市との連携において総合統括・コーディネートを行い、各取り組みにおいては、総社市各担当部署との連携により行う外国人向け体験学習・講習会の実施、AMDA グループとの多文化共生に関する協定に基づく地域医療機関との連携事業・防災教室の実施、総社市地域コミュニティ連絡協議会と総社ブラジリアンコミュニティ&インターナショナルフレンズとの連携による国際交流イベントの開催・地域コミュニティ連携防災訓練事業の実施、総社市内保育・子育て NPO 法人との連携による子育て応援事業の実施、岡山県内・近隣地域（広島県、香川県、兵庫県、鳥取県、島根県）の日本語教室との連携による講師招聘や教室視察・交流・情報交換活動、岡山大学、ノートルダム清心女子大学など日本語教員養成課程を持つ県内の大学との連携による若手人材育成や日本語教育専門家との情報交換等、地域相互連携支援体制を整えている。

6. 運営委員会の開催について

【運営委員】

1	川原 玲子	総社市人権・まちづくり課
2	中東 靖恵	岡山大学大学院社会文化科学研究科
3	平松 秀昭	総社市地域コミュニティ連絡協議会
4	樂木 章子	岡山県立大学保健福祉学部
5	尾崎 喜光	ノートルダム清心女子大学文学部

【概要】

回	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成 28 年 5 月 24 日（火） 16:30-18:30	2 時間	総社市役所 本庁舎 2 階 会議室	川原 玲子 中東 靖恵 平松 秀昭 樂木 章子 尾崎 喜光	1. 平成 28 年度総社市日本語教育事業の目的・事業概要の説明 2. 各取り組み（日本語教室、サポーター育成研修、防災訓練事業、子育て応援事業、外国人就労者調査研究事業）についての概要、年間スケジュールの説明 3. 日本語教室・サポーター育成研修への受講者申し込み状況の報告等

2	平成 28 年 9 月 27 日(火) 17:00-19:00	2 時間	総社市役所 本庁舎 2 階 会議室	川原 玲子 中東 靖恵 平松 秀昭 樂木 章子 尾崎 喜光	1. 平成 28 年度総社市日本語教育事業各取り組み (日本語教室, サポーター育成研修, 防災訓練 事業, 子育て応援事業, 外国人就労者調査研究 事業)についての現状, 進行状況の報告 2. 中間アンケートの結果報告 3. 各取り組みについての課題等の検討
3	平成 29 年 3 月 7 日(火) 15:00-17:00	2 時間	総社市保健セ ンター 2 階 資料展示室	川原 玲子 中東 靖恵 平松 秀昭 樂木 章子 尾崎 喜光	1. 平成 28 年度総社市日本語教育事業各取り組み (日本語教室, サポーター育成研修, 防災訓練 事業, 子育て応援事業, 外国人就労者調査研究 事業)についての最終報告 2. 最終アンケートの結果報告 3. 今年度事業の反省 4. 次年度事業への課題等の検討

7. 取組についての報告

取組1:地域でつながる日本語教室

(1) 体制整備に向けた取組の目標

- ・地域に暮らす外国人住民が日常生活に必要な日本語の習得やコミュニケーション能力の向上を図りながら, 日本人住民との交流を通じて実践的な日本語の運用能力を身につけるとともに, 日本の文化・習慣および医療・防災などの行政情報を得, 地域住民としての自立と地域社会への積極的参加を促す。

(2) 取組内容

- ・地域に暮らす日本人住民との交流を通じて, 実践的な日本語の運用能力を身につけることのできる日本語教室を開設し, 講習会や体験学習を通して日本の文化・習慣に関する知識と, 医療・福祉・教育・防災などの行政情報を提供することにより, 安心して社会生活が送れるよう, また地域住民としての自立と積極的社会参加を促す。

(3) 対象者

- ・地域に居住する外国人住民(母語, 国籍は問わない)

(4) 参加者の総数 84 人※延べ人数ではなく, 参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 84 人

【出身・国籍別内訳】

中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
26	26	0	0	7	1	1	13

※その他の国籍と人数:ペルー2人, アメリカ1人, ミャンマー1人, パナマ1人, 台湾1人, ジャマイカ1人, メキシコ1人, トリニダード・トバゴ1人, 日本1人

(5) 開催時間数(回数)

- ・ 60 時間 (2 時間 × 全 30 回)

(6) 活動の内容

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 28 年 6 月 19 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健センター	31 人	自己紹介・ 日常の挨拶 をする	自己紹介をするために必要なあいさつ表現や語彙について学び、参加者間で実践練習をした。 【イベント】「自己紹介」ゲーム	高田 聡 加藤佳寿美	譚 俊偉 赤澤 春香
2	平成 28 年 6 月 26 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健センター	28 人	ごみの出し方・公共マナーを理解する	ごみの種類、分別・回収方法など、ごみ出しに必要な語彙・表現を、実物を使用しながら学んだ。 【イベント】環境課職員によるごみ分別講習	船曳 清美 岡田 恵子	譚 俊偉 赤澤 春香
3	平成 28 年 7 月 3 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健センター	24 人	地震・台風について理解する	地震や台風など災害時の対策や避難方法に関する表現を学んだ。 【イベント】七夕の短冊書き	船曳 清美 高田 聡	譚 俊偉 赤澤 春香
4	平成 28 年 7 月 17 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健センター	28 人	浴衣の着付け講習	日本伝統文化である浴衣について学び、実際に学習者・サポーターと一緒に浴衣を着付け合った。	小川 宏子 岡田 恵子	譚 俊偉 赤澤 春香
5	平成 28 年 7 月 24 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健センター	15 人	総社市役所に電話して外国人相談員を呼ぶ	電話の応答に必要な表現を学び、市職員を相手に電話で外国人相談員を呼ぶ実践練習をした。 【イベント】盆踊りの練習	小川 宏子 高田 聡	
6	平成 28 年 7 月 30 日(日) 8:00-10:00	2 時間	総社中学校	-	地域コミュニティ連携防災訓練	地域コミュニティ連携防災訓練に参加し、日本人住民と一緒に防災について学んだ。	-	-
7	平成 28 年 8 月 7 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健センター	19 人	書道を習う	日本文化の一つである書道について概略を学び、書道講師により実践的な指導を受けた。	船曳 清美 岡田 恵子 松本 真明	
8	平成 28 年 8 月 21 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健センター	26 人	日本のマナーを知る	日本の葬式に関する習慣(香典、焼香、服装など)や決まり文句について学んだ。 【イベント】お葬式のマナーを学ぶ	小川 宏子 高田 聡 小池 邦宏	赤澤 春香
9	平成 28 年 8 月 28 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社宮	17 人	総社の行事・イベントに参加する	地元の行事「総社力石」に参加した。	加藤佳寿美 岡田 恵子	譚 俊偉 赤澤 春香
10	平成 28 年 9 月 11 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健センター	28 人	メニューを読んで理解する	レストランや飲食店のメニューを読むために必要な語彙と注文をする際に必要な表現を学んだ。 【イベント】日本語教室展示準備	小川 宏子 加藤佳寿美	譚 俊偉 赤澤 春香
11	平成 28 年 9 月 18 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健センター	20 人	交通ルール・交通マナー	道路標識の種類・意味や、日本の交通ルール・交通マナーに関する語彙・表現を学んだ。	小川 宏子 高田 聡	赤澤 春香 (1 時間)

						【イベント】交通安全・交通マナー講習		
12	平成 28 年 10 月 1 日(土) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	-	国際フェスタ に参加する	カミガツジプラザで開催され た「総社インターナショナルフ ェスタ」に参加した。	-	-
13	平成 28 年 10 月 9 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	18 人	日本・岡山 の観光, 日 本の1年	日本国内・岡山県内の観光 地・祭り・イベントや名物名産 について知り, それらの情報 を得るための表現を学んだ。 【イベント】「あ」から始まる言 葉ゲーム	小川 宏子 船曳 清美	
14	平成 28 年 10 月 16 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	17 人	交通事故・ 犯罪事件で 110 番・119 番に電話す る	交通事故・犯罪事件で 110 番・119 番に電話通報するた めに必要な表現を学び, 実 践練習をした。 【イベント】中間アンケート	小川 宏子 高田 聡	譚 俊偉 赤澤 春香
15	平成 28 年 10 月 23 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	18 人	公共交通機 関を利用す る	公共交通機関の予約方法や 時間の表示方法に必要な表 現を学んだ。 【イベント】「か」から始まる言 葉ゲーム	高田 聡 岡田 恵子	
16	平成 28 年 10 月 30 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市中央 公民館	23 人	茶道を習う	日本文化の一つである茶道 を習った。お茶のたて方, 飲 み方, 礼儀作法も学んだ。	小川 宏子 加藤佳寿美 加藤三智子	譚 俊偉 赤澤 春香
17	平成 28 年 11 月 6 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	15 人	サイズ・色・ 素材を尋ね て購入する	洋服や靴などのサイズ・色・ 素材を尋ねて購入するのに 必要な語彙・表現を学んだ。 【イベント】岡山大学の学生と 会話する	船曳 清美 加藤佳寿美	譚 俊偉 赤澤 春香
18	平成 28 年 11 月 13 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	16 人	買い物の仕 方を学ぶ	買い物をする際に情報を得 るために必要な, 基本的な語 彙・表現を学び練習をした。 【イベント】「は」から始まる言 葉ゲーム	船曳 清美 高田 聡	譚 俊偉 赤澤 春香
19	平成 28 年 11 月 20 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社北小学 校	9 人	防災訓練に 参加する	総社市主催の防災訓練に日 本語教室として参加し, 土の う積み訓練, 救急救命講習, 避難所体験などを実体験し た。	-	-
20	平成 28 年 11 月 27 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	7 人	病院探し・医 者の診察を 受ける	病院で診察を受ける際に必 要な語彙・表現を学び, 実際 の診察室で実践練習をした。 【イベント】「き」から始まる言 葉ゲーム	船曳 清美 岡田 恵子	
21	平成 28 年 12 月 4 日(日) 9:30-11:30	2 時間	高杉こども クリニック	8 人	病院見学・ 病院での受 付・診察体 験	総社市内にある病院で病院 見学を行うとともに, 病院で の受付・診察を模擬体験し た。	小川 宏子 船曳 清美 高杉 尚志	赤澤 春香

22	平成 28 年 12 月 11 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	16 人	年賀状を書 く	年末年始に使うきまり文句や 表現を学び、日本の年末行 事として年賀状を書く体験を した。 【イベント】文化庁アンケート	高田 聡 岡田 恵子	譚 俊偉 赤澤 春香
23	平成 29 年 1 月 8 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	10 人	慶事の文化 風習・マナ ーを学ぶ	日本の結婚式に関する習慣 (祝儀、服装など)や決まり文 句について学んだ。 【イベント】「と」から始まる言 葉ゲーム	小川 宏子 岡田 恵子	譚 俊偉 赤澤 春香
24	平成 29 年 1 月 15 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市役所 西庁舎	9 人	道を尋ね る、道を教 える	道を尋ねたり、道を教えたり するために、場所や道順を教 える語彙や表現を学んだ。 【イベント】すごろく	高田 聡 加藤佳寿美	譚 俊偉 赤澤 春香
25	平成 29 年 1 月 22 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社消防署	21 人	消防署見 学、火災で 110・119 番 に電話する	総社市消防署で 110 番・119 番に通報する方法や防災に ついて学び、消火訓練を行っ た。	小川 宏子 岡田 恵子	譚 俊偉 赤澤 春香
26	平成 29 年 1 月 29 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	19 人	地域や学校 の行事・イベ ントを知る	日本の地域や学校の行事・ イベントに関する語彙、季節・ 時間に関する表現を学んだ。 【イベント】「し」から始まる言 葉ゲーム	小川 宏子 船曳 清美	赤澤 春香
27	平成 29 年 2 月 5 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	20 人	買い物を体 験する	日常生活の活動として頻度 の高い「買い物」を取り上げ、 買い物行為で必要な語彙・ 表現を学び、シミュレーション を行った。 【イベント】節分の歌・豆まき	小川 宏子 高田 聡	
28	平成 29 年 2 月 12 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	20 人	薬局を利用 する。薬の 説明を理解 する	薬の種類、薬袋や処方箋に 書かれてある語彙・表現を学 び、必要な薬を買う練習をし た。 【イベント】「お」から始まる言 葉ゲーム	小川 宏子 岡田 恵子	譚 俊偉 赤澤 春香
29	平成 29 年 2 月 19 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	17 人	職場でのあ いさつ・こと ばづかいを 理解する	職場での丁寧な言葉づかい やあいさつ表現、履歴書の 書き方を学んだ。 【イベント】最終アンケート	高田 聡 加藤佳寿美	譚 俊偉 赤澤 春香
30	平成 29 年 3 月 5 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	21 人	引っ越しの あいさつを する	公共マナーと、引っ越しの際 に使う決まり文句や引っ越し のあいさつ時に贈る物につ いて学んだ。 【イベント】合同修了式	船曳 清美 高田 聡	譚 俊偉 赤澤 春香

(7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組事例①

【第 2 回 平成 28 年 6 月 26 日】

ごみの出し方・公共マナーを理解する

講師:総社市環境水道部環境課美化推進係 主事 新谷 紗季子

総社市環境水道部環境課美化推進係 主事 岩田 浩一

総社市のゴミの分別・回収方法、収集日について、レアリアを使用しながら市職員が説明した。



取組事例②

【第 11 回 平成 28 年 9 月 18 日】

交通ルール・交通マナーを学ぶ

講師：総社市市民生活部交通政策課 主事 福島 由佳

交通安全指導員 竹下 加奈子, 岩本 多加子

市職員による交通安全講習が行われ、標識を使った神経衰弱ゲーム等を通じ交通マナーを学んだ。



(8) 目標の達成状況・成果

・昨年度に引き続き、地域の特性を生かした日本語教育プログラムとして策定した「平成 28 年度総社市版「生活者としての外国人」に対する日本語教育カリキュラム」(30 単位)に従い、学習シラバス(2 時間×30 回=60 時間)を作成して授業を行った。毎回の授業終了時に受講者が記入する「活動記録」およびミーティングでのコーディネーター・指導者・日本語学習サポーター・市職員との話し合い、日本語教室受講者に対して行った中間および最終アンケート調査の結果により、以下に挙げるような一定の成果を上げることができたことが確認された。

- ①日本での生活を円滑に行うために必要な日本語コミュニケーション能力の向上：日本語教室受講者に対するアンケート調査の結果、日本語の 4 技能(聞く・話す・読む・書く)における能力向上、きちんとした日本語が使えるようになった、日本の文化や習慣を知ることができたと感じる者が多かった。また、日本語教室が楽しい、日本語を使って日本人としゃべる機会が増えた、日本人と交流する機会が増えたと回答している受講者が多く、日本語教室が「日本語を使って住民同士が交流する場」として機能しており、教室参加が受講者の日本語コミュニケーション能力向上を促進する役割を果たしていることを確認することができた。
- ②地域社会で生活するために必要な行政・生活情報の提供：総社市日本語教室における外国人向け

体験学習・講習会の実施は総社市各担当部署との連携により、また、その他日本語教室における生活情報・行政情報の提供は、岡山県内の NPO、各種機関・団体との連携により行った。

(ア) 総社市各担当部署との連携

- 環境課美化推進係によるゴミ分別講習(平成 28 年 6 月 26 日)
- 総社市主催の夏祭り「雪舟フェスタ」への参加(平成 28 年 8 月 6 日)
- 交通政策課による交通安全講習(平成 28 年 9 月 18 日)
- 総社市防災訓練への参加(平成 28 年 11 月 20 日)
- 総社市消防本部による消防署見学・消火訓練(平成 29 年 1 月 22 日)

(イ) 岡山県内の NPO、各種機関・団体との連携

- 徳眞書道教室講師による日本語教室での書道講習(平成 28 年 8 月 7 日)
- (株)いのうえの講師による弔事のマナー講習(平成 28 年 8 月 21 日)
- 茶道講師による茶道講座(平成 28 年 10 月 30 日)
- 高杉こどもクリニックでの病院見学・受診体験(平成 28 年 12 月 4 日)

- ③地域住民同士がつながる場の提供: 今年度も引き続き、「地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修」における研修の一環として、地域に暮らす日本人住民が、外国人住民の日本語学習を支援する「日本語学習サポーター」として日本語教室に参加することにより、教室内でより細やかなサポートを行えるようにするとともに、「地域住民同士がつながる場」として日本語教室が機能するよう、外国人住民と日本人住民との交流を促す試みを行った。日本語教室受講者の日本語能力のレベル差が大きいことから、教室活動における日本語学習サポーターの役割は大きく、また、地域で顔を合わせる機会の多い地域住民であること、継続して参加するサポーターの存在もあり、受講者との関係性の構築や教室内でのサポートの方法などの面で、この仕組みがより一層うまく機能し、地域住民同士のつながりがより強化されているように感じられた。
- ④地域の外国人支援活動・多文化共生を推進するための基盤作り: 今年度は、総社市役所ロビーでの展示に加え、10 月 1 日(土)に行われた SOJA INTERNATIONAL FESTA 会場、総社市図書館、市内各公民館、さらには地元信用金庫本店ロビーに日本語教室のパネル展示を行い、日本語教室活動の様子が例年より多くの市民の目に触れることとなった。そしてパネル展示を見た市民から心温まるメッセージが多数寄せられた。地域社会に対して外国人支援活動に対する理解を求めるとともに、日本語教室が地域に暮らす外国人住民と日本人住民をつなぐ場となり、地域住民による外国人支援活動を地域社会に根付かせることができるよう今後も引き続き日本語教室活動の一環として行っていきたい。

(9) 今後の改善点について

- ①日本語教室の授業内容・教授方法: 昨年度の反省を踏まえ、改訂を行った「平成 28 年度総社市版「生活者としての外国人」に対する日本語教育カリキュラム」に従って授業シラバスを作成した。各テーマを担当する日本語指導者を昨年度とできるだけ入れ替え、授業内容にバリエーションを持たせるよう工夫した。また、1 回完結型の会話コミュニケーション重視の授業形態は、受講者に対して「いつ来ても日本語教室に参加できる」という安心感を与えることができるものと再認識できた。

②日本語教室の運営・実施体制:

ア) 複数の日本語教授者によるローテーション体制: 今年度においては、5 人の有資格者によるローテーション体制によって教室運営を行った。各授業担当者がメールで授業報告(受講者人数、受講者の国籍・日本語レベル等、授業で扱った文型・内容、授業中気になったこと)をすることで、授業内容の確認、引き継ぎ、情報共有を行った。日本語教育の質を確保するため、本市事業においては有資格者

で、教歴が長く、かつ、多様な形態での教授経験を持つ日本語教師を指導者として配置しているが、指導者の評判が大変良いので、今後も引き続き有資格者による日本語教室運営を行っていきたい。

イ)日本語学習サポーターの教室参加:H24 年度から、人材の養成・研修の一環として、地域住民が「日本語学習サポーター」として日本語教室に教授者の補助的存在(=サポーター)として参加するという形態をとっているが、5 年が経ち、その仕組みが日本語教室内にすっかり定着し、円滑に機能している。日本語学習サポーターによるきめ細やかな補助を行いながら、教室運営をしていくという方法は、地域日本語教育の教室運営の在り方の一つとして有効であることを実感している。

③日本語教室の受講者:本市では、できるだけ多くの外国人住民が参加できるよう、小さな子供のいる家庭でも日本語教室に参加できるよう、無料で保育・託児を設けている。また、授業内容や授業の方法においてさまざまな工夫を行い、常に授業改善を行っている。その成果もあり、受講者登録者数が 100 名を超え、毎回の授業参加者数も安定はしていたが、受講者で参加回数に差があり、1 年を通じて受講した人は少なく、教室に継続して来ることが難しいことは相変わらずである。また、今年度は昨年から増加したベトナム人技能実習生の受講者も大きな割合を占めたが、参加数の変動が顕著であったことから、今後の外国人事情の動向も踏まえつつ事業の方向性を考えたい。

取組2:地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修事業

(1) 体制整備に向けた取組の目標

・地域住民を対象に、外国人住民の日本語学習を生活支援の一環としてサポートする人材の育成を行うとともに、外国人住民の自立や積極的社会参加を促す意義や重要性を働きかけながら、多文化共生社会への意識啓発・意識醸成を行い、継続的な外国人支援体制を地域に根付かせるための基盤作りを行う。

(2) 取組内容

・地域住民を対象に、外国人住民の日本語学習を生活支援の一環としてサポートする「日本語学習サポーター」を育成するため、外国人支援・多文化共生・日本語教育に関する知識を身につけるための「学習研修」と日本語教室に参加して日本語学習をサポートする方法を実践的に学ぶ「実践研修」を行う。また、市職員に対しても、多文化共生意識の啓発・向上と「やさしい日本語」の習得を目的に研修を行う。

(3) 対象者

・外国人住民の支援に関心のある地域住民(日本人住民、日本語に堪能な外国人住民)

(4) 参加者の総数 _____ 17 _____ 人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 _____ 0 _____ 人

【出身・国籍別内訳】

中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	日本
0	0	0	0	0	0	0	0	17

※その他の国籍と人数:なし

(5) 開催時間数(回数)

・ _____ 31 _____ 時間 (下記(ア)(イ)の合計)

(ア)学習研修:1 回 2 時間×3 回(2 時間×3 回=6 時間)参加

(イ)実践研修:1 回 2.5 時間(日本語教室:2 時間, ミーティング:0.5 時間=2.5 時間)×30 回のうち, 10 回
(2.5 時間×10 回=25 時間)以上参加

(6) 活動の内容

(6)-1 職員を対象とした「やさしい日本語研修」

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 28 年 10 月 26 日(水) 13:30~15:30	2 時間	総社市総合 福祉センタ ー	30 人	職員向け 「やさしい 日本語」 講座	市役所での窓口対応を「やさしい日本語」に換えるワーク ショップ	水野マリ子	-

(6)-2 学習研修:日本語教育に関する研修を受講

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 28 年 6 月 12 日(日) 13:30-15:30	2 時間	総社市保健 センター	14 人	総社市に おける多 文化共生 施策の概 要	総社市における外国人事情・ 多文化共生施策の概要, 平 成 28 年度総社市地域参加 型生活サポート日本語教育 事業概要と日本語学習サポ ーターの役割	中東 靖恵 河原 睦弘	-
2	平成 28 年 7 月 3 日(日) 13:30-15:30	2 時間	総社市保健 センター	8 人	「やさしい 日本語」 講座	「やさしい日本語」の作り方, 自分たちの考えた「やさしい 日本語」が外国人に通じるか 検証するワークショップ	福井 武司	-
3	平成 28 年 8 月 21 日(日) 13:30-15:30	2 時間	総社市保健 センター	9 人	日本語を 知ろう(語 彙文法)	普段何気なく使っている日本 語のルール(文法)について 考えるワークショップ	宮崎 聡子	-

(6)-3 実践研修:「地域でつながる日本語教室」に日本語学習サポーターとして参加

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 28 年 6 月 19 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	11 人	自己紹介	自己紹介をするために必要 なあいさつ表現や語彙につ いて学び, 参加者間で実践 練習をした。 【イベント】「自己紹介」ゲーム	-	-
2	平成 28 年 6 月 26 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	8 人	ごみの出し 方・公共マ ナーを理解 する	ごみの種類, 分別・回収方法 など, ごみ出しに必要な語 彙・表現を, 実物を使用しな がら学んだ。 【イベント】環境課職員による ごみ分別講習	-	-
3	平成 28 年 7 月 3 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	6 人	地震・台風 について理 解する	地震や台風など災害時の対 策や避難方法に関する表現 を学んだ。 【イベント】七夕の短冊書き	-	-
4	平成 28 年 7 月 17 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	9 人	浴衣の着付 け講習	日本伝統文化である浴衣に ついて学び, 実際に学習者・ サポーターと一緒に浴衣を 着付け合った。	-	-

5	平成 28 年 7 月 24 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	8 人	総社市役所 に電話して 外国人相談 員を呼ぶ	電話の応答に必要な表現を 学び、市職員を相手に電話 で外国人相談員を呼ぶ実践 練習をした。 【イベント】盆踊りの練習	-	-
6	平成 28 年 7 月 30 日(日) 8:00-10:00	2 時間	総社中学校	6 人	地域コミュニ ティ連携防 災訓練	地域コミュニティ連携防災訓 練に参加し、日本人住民と一 緒に防災について学んだ。	-	-
7	平成 28 年 8 月 7 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	7 人	書道を習う	日本文化の一つである書道 について概略を学び、書道講 師により実践的な指導を受け た。	-	-
8	平成 28 年 8 月 21 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	9 人	日本のマナ ーを知る	日本の葬式に関する習慣(香 典、焼香、服装など)や決まり 文句について学んだ。 【イベント】お葬式のマナーを 学ぶ	-	-
9	平成 28 年 8 月 28 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社宮	7 人	総社の行 事・イベント に参加する	地元の行事「総社力石」に参 加した。	-	-
10	平成 28 年 9 月 11 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	8 人	メニューを 読んで理解 する	レストランや飲食店のメニュ ーを読むために必要な語彙 と注文をする際に必要な表 現を学んだ。 【イベント】日本語教室展示準 備	-	-
11	平成 28 年 9 月 18 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	8 人	交通ルー ル・交通マ ナーを学ぶ	道路標識の種類・意味や、日 本の交通ルール・交通マナー に関する語彙・表現を学ん だ。 【イベント】交通安全・交通マ ナー講習	-	-
12	平成 28 年 10 月 1 日(土) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	-	国際交流イ ベントに参 加する	カミガツジプラザで開催され た「総社インターナショナルフ ェスタ」で、各国料理販売、歌 や踊りのステージに参加し た。	-	-
13	平成 28 年 10 月 9 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	4 人	日本・岡山 の観光、日 本の 1 年	日本国内・岡山県内の観光 地・祭り・イベントや名物名産 について知り、それらの情報 を得るための表現を学んだ。 【イベント】「あ」から始まる言 葉ゲーム	-	-
14	平成 28 年 10 月 16 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	6 人	交通事故・ 犯罪事件で 110 番・119 番に電話す る	交通事故・犯罪事件で 110 番・119 番に電話通報するた めに必要な表現を学び、実 践練習をした。 【イベント】中間アンケート	-	-
15	平成 28 年 10 月 23 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	7 人	公共交通機 関の利用方 法	公共交通機関の予約方法や 時間の表示方法に必要な表 現を学んだ。 【イベント】「か」から始まる言 葉ゲーム	-	-

16	平成 28 年 10 月 30 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市中央 公民館	8 人	茶道を習う	日本文化の一つである茶道 を習った。お茶のたて方、飲 み方、礼儀作法も学んだ。	-	-
17	平成 28 年 11 月 6 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	7 人	サイズ・色・ 素材を尋ね て購入する	洋服や靴などのサイズ・色・ 素材を尋ねて購入するのに 必要な語彙・表現を学んだ。 【イベント】岡山大学の学生と 会話する	-	-
18	平成 28 年 11 月 13 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	4 人	サイズ・色・ 素材を尋ね て購入する	洋服や靴などのサイズ・色・ 素材を尋ねて購入するのに 必要な語彙・表現を学んだ。 【イベント】「は」から始まる言 葉ゲーム	-	-
19	平成 28 年 11 月 20 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社北小学 校	6 人	防災訓練に 参加する	総社市主催の防災訓練に日 本語教室として参加し、土の う積み訓練、救命訓練、避難 所体験などを体験した。	-	-
20	平成 28 年 11 月 27 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	10 人	医者診察を 受ける・病 気への対処 法	病院で診察を受ける際に必 要な語彙・表現を学び、実際 の診察室で実践練習をした。 【イベント】「き」から始まる言 葉ゲーム	-	-
21	平成 28 年 12 月 4 日(日) 9:30-11:30	2 時間	高杉こども クリニック	7 人	病院見学・ 病院での受 付・診察体 験	総社市内にある病院で病院 見学を行うとともに、病院で の受付・診察を模擬体験し た。	-	-
22	平成 28 年 12 月 11 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	9 人	年賀状を書 く	年末年始に使うきまり文句や 表現を学び、日本の年末行 事として年賀状を書く体験を した。 【イベント】文化庁アンケート	-	-
23	平成 29 年 1 月 8 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	4 人	慶事の文化 風習・マナ ーを学ぶ	日本の結婚式に関する習慣 (祝儀、服装など)や決まり文 句について学んだ。 【イベント】「と」から始まる言 葉ゲーム	-	-
24	平成 29 年 1 月 15 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市役所 西庁舎	6 人	道を尋ね る、道を教 える	道を尋ねたり、道を教えたり するために、場所や道順を教 える語彙や表現を学んだ。 【イベント】すごろく	-	-
25	平成 29 年 1 月 22 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社消防署	6 人	消防署見 学、火災で 110・119 番 に電話する	総社市消防署で 110 番・119 番に通報する方法や防災に ついて学び、消火訓練を行っ た。	-	-
26	平成 29 年 1 月 29 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	9 人	地域や学校 の行事・イ ベントを知る	日本の地域や学校の行事・ イベントに関する語彙、季節・ 時間に関する表現を学んだ。 【イベント】「し」から始まる言 葉ゲーム	-	-

27	平成 29 年 2 月 5 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	7 人	買い物を体 験する	日常生活の活動として頻度 の高い「買い物」を取り上げ、 買い物行為に必要な語彙・表 現を学び、シミュレーションを 行った。 【イベント】節分の歌・豆まき	-	-
28	平成 29 年 2 月 12 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	7 人	薬局を利用 する。薬の 説明を理解 する	薬の種類、薬袋や処方箋に 書かれてある語彙・表現を学 び薬を買う練習をした。 【イベント】「お」から始まる言 葉ゲーム	-	-
29	平成 29 年 2 月 19 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	8 人	職場でのあい さつ・こと ばづかいを 理解する	職場での丁寧な言葉づかい やあいさつ表現、履歴書の書 き方を学んだ。 【イベント】最終アンケート	-	-
30	平成 29 年 3 月 5 日(日) 9:30-11:30	2 時間	総社市保健 センター	10 人	引っ越しの あいさつを する	公共マナーと、引っ越しの際 に使う決まり文句や引っ越し のあいさつ時に贈る物につい て学んだ。 【イベント】合同修了式	-	-

(7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組事例①

【第 2 回 平成 28 年 7 月 3 日】

「やさしい日本語」講座

講師：神戸 YWCA 学院 副主任講師 福井 武司

「やさしい日本語」に言い換えるポイントを実践的に学んだ。ブラジル人学習者、ベトナム人学習者に協力してもらい、日本人サポーターが考えた「やさしい日本語」が本当に外国人に伝わるか、伝わらない場合どこをどう変えたらよいかを体感できるワークショップを行った。



取組事例②

【第 3 回 平成 28 年 8 月 21 日】

日本語を知ろう(語彙文法)

講師：長崎外国語大学 特任講師 宮崎 聡子

日本語教室の講師による語彙文法に関する講義が行われ、日本人にとっての日本語の文法がどのように法則化されたか、外国人の日本語の間違ひはなぜ起きるかを学んだ。



(8) 目標の達成状況・成果

・本市に暮らす地域住民を対象に、外国人支援に関する基礎的知識を教授する「(ア)学習研修」と、本市に開設する日本語教室に参加して実際に外国人住民と交流をしながら、生活支援の一環として日本語学習をサポートする方法を実践的に学んでもらう「(イ)実践研修」の2つの研修を行った。また、市民であり、かつ、外国人支援の最前線にいる市職員に対する「やさしい日本語」研修を行った。毎回の授業終了時に行うミーティングでの指導者・日本語学習サポーター・コーディネーター・市職員との話し合い、日本語学習サポーター育成研修受講者に対して行った中間・最終アンケート調査の結果により検証を行い、一定の成果を上げることができたことが確認された。

- ①外国人支援に関する基礎的知識の習得:「自分が住む地域にこんなに色々な外国人がいるのだという認識を持てた」「日本人とは異なる、事象の受け止め方、価値観などを考えさせられ、大変参考になった」「外国の方の日本語理解度が、状況や興味等によってまったく違うということがわかった」といったコメントが寄せられ、普段の教室活動を通じて感じる基礎的知識を習得することの重要性が認識された。
- ②外国人受講者の日本語学習をサポートする実践的な方法の習得:「日本語について再発見が多くあり、ためになった」「少しは外国人の方の役に立てているのかなと思える」「日本語のどこが分かりにくいかが理解できた」といったボランティア参加を行うことで誰かの役に立っているという喜びとともに、外国の文化や習慣を知るだけでなく自国のことについても改めて考えることの必要性が感じられるコメントが寄せられた。
- ③地域の外国人支援活動・多文化共生を推進するための基盤作り:H24年度から開始した「日本語学習サポーター」という仕組みを導入して5年目を迎えたが、継続して参加するサポーターの数が増え、サポーター同士のつながりも広がりを見せ、より一層この仕組みがうまく機能し、地域住民同士のつながりがより強化されているように感じられ、外国人支援や多文化共生に対する地域住民の意識啓発につながったものと考えられる。市内の飲食店で外国人を意識したやさしい日本語での張り紙や注意書きを見る機会が増えたというような指摘もあり、市民自身の多文化共生に対する意識が徐々に向上している。また昨年度からはサポーター自身による「浴衣の着付け」(H28年7月17日)を行っており、サポーターの成長と自主的活動の広がりを見ることができた。

(9) 今後の改善点について

・「日本語学習サポーター」という仕組みは本市教室のスタイルとして定着しつつある。だが一方で、地域全体における日本語教育事業の認知度はまだそれほど高くなく、日常生活における日本人住民と外国人住民との接触が非常に少なく、外国人支援や多文化共生に対する意識もまだ低いため、今後も人材の確保・育成を継続して行っていきたい。

取組3:地域コミュニティ連携防災訓練事業

(1) 体制整備に向けた取組の目標

- ・地域に暮らす外国人住民に対し、地域コミュニティ、外国人防災リーダー、行政が連携し、外国人集住地区において、地域コミュニティが主催する防災訓練に参加する機会を外国人にも広く周知・提供し、外国人住民に必要な防災知識の習得と災害時に必要な日本語習得を促し、情報伝達ができないことによる災害時要支援外国人住民を減少させるとともに、防災訓練を通じて、日本人住民との「顔が見える関係づくり」と外国人支援意識の向上・啓発を図る。

(2) 取組内容

- ・外国人住民が多く居住する地区の地域コミュニティと連携し、地域コミュニティ主催の防災訓練に外国人住民が参加し、災害時に使用する実用的な日本語を教授する。地域の防災訓練に外国人住民が参加することで、地域の一員として日本人住民と「顔が見える関係づくり」を行う。

(3) 対象者

- ・地域に居住する日本人住民及び外国人住民

(4) 参加者の総数 135 人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 29 人

【出身・国籍別内訳】

中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	日本
0	12	0	0	4	0	1	11	106

※その他の国籍と人数:アメリカ1人

(5) 開催時間数(回数)

- ・ 2 時間 (2 時間× 全 1 回)

(6) 活動の内容

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 28 年 7 月 30 日(土) 8:00-10:00	2 時間	総社中学校(防災施設)	135 人	地域コミュニティ連携 防災訓練	防災担当課による防災機能の紹介、外国人向けの総社市ハザードマップ(外国語版)の説明。先進自主防災組織による防災グッズの紹介。熊本地震に対する支援活動の紹介。地震体験訓練等の体験型訓練の実施。	—	譚 俊偉 赤澤 春香 古城デイジー ハレル

(7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組事例①

【第 1 回 平成 28 年 7 月 30 日】

講師: 神在コミュニティ協議会 会長 平松 秀昭

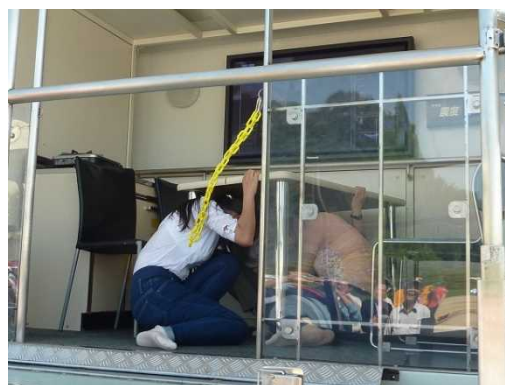
大字下原自治会 会長 川田 嘉

総社市総務部危機管理室 室長 河田 秀則

総社市総務部危機管理室 主査 中島 俊明

総社市総務部危機管理室 嘱託 小池 初男

市内にある防災施設「総社中学校」で、地域の日本人・外国人住民を対象に防災訓練を実施した。防災担当課が施設内にある災害のときに役に立つ設備の紹介をしたほか、総社市内自主防災の先進組織である大字下原自治会の会長から、自主防災組織の取り組み・防災グッズの紹介も行った。また外国人参加者に向けて、岡山県立大学教授から、総社市ハザードマップ(外国語版)の説明を行った。体験型訓練として、地震体験訓練、煙体験訓練、消防車両の展示見学等を実施した。そのほか総社市外国人防災リーダーが各体験型訓練のフォローを行った。



(8)目標の達成状況・成果

・昨年度から実施している本事業は、外国人住民が多く居住する地区の地域コミュニティと連携し、これまでは日本人住民が主に参加していた地域コミュニティ主催の防災訓練に外国人住民が参加するという画期的な試みである。防災訓練を通して防災知識を身に付けるだけでなく、体験的に日本語を学習することを目的とした。行政と連携し、地域コミュニティの多大なる協力により、多くの地域住民が防災訓練に参加し、日本語教室に通っている外国人住民だけでなく、日頃、日本語教室に通っていない外国人住民の参加もあったことは大きな成果であった。

(9)今後の改善点について

・今後継続していく中で少しずつ具体的な成果が得られるようになっていくだろうが、防災訓練を通じ、地域の一員として日本人住民と「顔の見える関係づくり」ができ、お互いにコミュニケーションをとれるようになることによって、日常会話をする機会も増え、日本語学習意欲の促進、ひいては日本語能力の向上も期待できる。また、防災訓練に参加する日本人住民に対しては、外国人支援意識の向上・啓発を図ることができると考えられる。

取組 4: 地域ではぐくむ子育て応援事業

(1) 体制整備に向けた取組の目標

・市内の保育・子育て NPO 法人との連携により、子育て世代の外国人保護者と子供を対象に、同世代の親子が集まる交流の場に参加する機会を提供し、子育てサポーターから育児に関する基礎的知識を学びながら育児用語や学校用語など子育てに関する日本語の習得を目指すとともに、日本人保護者と子供等との交流の場を通じて、地域に暮らす住民として子育ての悩みを相談・共有することで、外国人保護者の子育てに対する不安を緩和・解消し、地域全体で子どもの健やかな成長を見守り、子育てを応援する。

(2) 取組内容

・子育てサポートを行う NPO 法人と連携し、従来日本人向けに行われている子育て支援事業に外国人親子が参加できる体制を整え、「子育て」という共通のテーマを通じ、外国人保護者が日本人保護者との交流を深め、情報を得られる場を提供する。

(3) 対象者

・地域に居住する外国人親子及び日本人親子

(4) 参加者の総数 39 人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 12 人

【出身・国籍別内訳】

中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	日本
9	0	0	0	6	0	1	9	14

※その他の国籍と人数:なし

(5) 開催時間数(回数)

・ 10 時間 (2 時間 × 3 回 + 4 時間 × 1 回)

(6) 活動の内容

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 28 年 8 月 23 日(火) 10:00-12:00	2 時間	総社ふれあいセンター2 階	0 人	いっしょにあそぼ!	未就学児とその家族を対象としたブース型イベント。エプロンシアター、紙芝居のほか、手作りおもちゃコーナーなど。 ※外国人参加者ゼロ。	-	-
2	平成 28 年 9 月 21 日(水) 10:00-12:00	2 時間	天満屋ハピータウンリブ総社店 3 階 なかよし広場 ぴよこっこ	11 人	インターナショナル子育て広場	外国にルーツを持つ 3 歳までの乳幼児とその保護者と日本人親子が集まる「子育て広場」。自己紹介、手遊び、子育てに関するおしゃべりなど。	-	譚 俊偉 赤澤 春香
3	平成 28 年 11 月 20 日(日) 9:30-13:30	4 時間	総社市総合福祉センター	25 人	チュッピータウンへ行こう!	主に乳幼児から小学生低学年以下の子供とその家族を対象としたブース型イベント。ステージでの音楽パフォーマンスや人形劇のほか、手作りおもちゃ	-	譚 俊偉 赤澤 春香

						コーナー、お琴体験コーナー、スラックライン体験コーナーなど。		
4	平成 28 年 12 月 4 日(日) 10:30-12:30	2 時間	清音ふるさとふれあい 広場	5 人	お餅つきを 楽しもう	主に 3 歳以下の乳幼児とその保護者を対象とした、体験型イベント。お餅つき、落ち葉を使った外遊びなど。	-	-

(7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組事例①

【第 2 回 平成 28 年 9 月 21 日】

「インターナショナル子育て広場」

連携先:NPO 法人 きよね夢てらす 子育て応援っこ

やさしい日本語に加え、ポルトガル語・中国語・英語に訳したチラシを作成し、外国人対象世帯へ送付。当日は、自己紹介(出身、こどもの名前、好きなことなど)、簡単な手遊びゲームをした後、「子ども同士のトラブル…どう解決する?」というテーマでおしゃべりタイムを設けた。子育て文化の違いを知ることができただけでなく、国に関わらず共通の悩みがあることを共有できる場となった。



取組事例②

【第 3 回 平成 28 年 11 月 20 日】

「チュッピータウンへ行こう!」

連携先:NPO 法人保育サポート あい・あい

補助者:総社市市民生活部人権・まちづくり課 多文化共生推進員 譚 俊偉, 赤澤 春香

やさしい日本語、ポルトガル語・中国語に訳したチラシを作成し、外国人対象世帯へ送付。当日は、音楽パフォーマンス、人形劇等のステージイベントのほか、バルーンアート、昔遊び、お琴体験、スラックライン体験、もちつき等のブースを自由に回りながら参加した。プログラムや会場図をやさしい日本語に訳し、当日外国人参加者に配付した。会場には通訳を配置し、適宜通訳した。また、各外国人家族が会場を回りやすくするために、会場内にはやさしい日本語、ポルトガル語・中国語・英語に訳した案内表示を貼った。日本人参加者約 800 人という大規模イベントの中、少数の外国人親子も自然に参加できる体制で臨むことができ、日本人参加者との交流も行えた。



(8) 目標の達成状況・成果

・外国人親子に対して「子育て」に関する情報を得られる場があるという生活情報を提供でき、外国人親子と日本人親子との交流促進・情報交換の場として機能させることができた。また、やさしい日本語や多言語による案内表示をするなど、従来日本人向けに行われている子育て支援事業に外国人親子が参加しやすい工夫をすることで、地域住民に対しても多文化共生・外国人支援意識の向上・啓発を促すことができた。

(9) 今後の改善点について

・周知方法や事業実施の際にうまく連絡の行き届かない点はあったが、本市で保育・子育てサポートを行う NPO 法人との連携はスムーズで、「子育て」という共通のテーマを通じ、外国人親子が地域社会の一員として積極的に社会参加できる環境整備を行うための第一歩となった。今後改善を図ることで、外国人親子と日本人親子との交流の場、子育ての相談ができる場づくりを行い、子育てサポーターや日本人親子との交流を通じて育児用語や学校用語など子育てに関する日本語の習得を目指すとともに、本事業を通じ、日本語学習に対する関心を高め、本市が開講する「地域でつながる日本語教室」への受講を促していきたい。

取組 5: 地域で働く外国人就労者の日本語教育支援に関する調査研究事業

(1) 体制整備に向けた取組の目標

・従来から本市に多く居住しているブラジル・ペルーなどの南米系の外国人就労者に加え、近年、中国・フィリピン・ベトナム・インドネシアなどアジア諸国の技能実習生が急速に増加している状況から、外国人住民を雇用している企業に対しヒアリング調査を実施し、日本語教育支援の実態とニーズや課題を明らかにし、今後の企業と行政との連携・協働の可能性について検討する。

(2) 取組内容

・外国人住民を雇用している(今後雇用を予定している)企業に対しヒアリング調査を実施し、日本語教育支援の実態と課題を明らかにし、日本語教育支援という観点から協力体制の構築を模索する。また本市に開設する【取組 1】「地域でつながる日本語教室」と、外国人の日本語学習支援を行う人材育成のための【取組 2】「地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修」との連携を図る。

(3) 開催時間数(回数)

・ 2 時間 (2 時間 × 1 回)

(4) 活動の内容

回	開催日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	概要	指導者名	補助者名
1	平成 29 年 1 月 18 日(水) 10:30-12:30	2 時間	大黒天物産 ㈱会議室	-	地域で働く外国人 就労者への調査に ついて	・ヒアリング調査 ・実施内容検討	-	-

(5) 目標の達成状況・成果

今年度はベトナム人技能実習生を多く雇用する企業に訪問することができ、人事担当者と直接話をするのができた。現在の外国人の雇用人数や今後の雇用予定、工場内における外国人の業務内容、外国人に対する指示の出し方や日本人従業員との関係性、外国人従業員を雇用することに対する企業の考えや、生活面での支援・日本語教育の支援の現状等、様々な情報を得ることができた。また今後、行政とどのような連携が可能であるのか、日本語教育支援に関するニーズについて具体的な提案も出され大いに参考になった。

(6) 今後の改善点について

地域で働く外国人就労者における日本語教育支援の実態と課題を明らかにするために、次年度に向け、外国人住民を雇用している(今後雇用を予定している)企業と、企業で雇用されている外国人就労者に対するアンケート調査を実施するための準備を行う。また、【取組 1】「地域でつながる日本語教室」と、外国人の日本語学習支援を行う人材育成のための【取組 2】「地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修」との連携を図るべく、地域全体が生活サポートとして外国人の日本語教育支援に参加できるような地域内での協力体制の構築を考えていきたい。

7. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

- ・地域に暮らす外国人住民が、日本人住民との交流を通して、日本での生活を円滑に行うために必要な日本語の習得とコミュニケーション能力の向上を図りながら、地域社会で暮らすために必要な生活情報・行政情報や、日本の文化・習慣に関する知識を得ることのできる場を設けるとともに、言葉の壁によって地域社会と孤立しがちな外国人住民の生活を、同じ地域に暮らす隣人としてサポートする人材を育成することにより外国人支援体制の基盤を作り、外国人住民が自立し、地域社会の一員として積極的に社会参加できるよう地域全体が支える多文化共生のまちづくりを目指す。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

- ・今年度「総社市地域参加型生活サポート日本語教育事業」においては、以下の取り組みを行った。
 - 【取組1】「地域でつながる日本語教室」
 - 【取組2】「地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修事業」
 - 【取組3】「地域コミュニティ連携防災訓練事業」
 - 【取組4】「地域ではぐくむ子育て応援事業」
 - 【取組5】「地域で働く外国人就労者の日本語教育支援に関する調査研究事業」
- ・各取り組みについての目標達成状況・事業の成果については、毎回の授業終了時に受講者が記入する「活動記録」、ミーティングでの指導者・日本語学習サポーター・コーディネーター・市職員との話し合い、毎月1回行うコーディネーター・指導者・市職員との打ち合わせ会、及び、日本語教室受講者・日本語学習サポーター・指導者に対して行った中間および最終アンケート調査の結果により検証を行い、一

定の成果を上げることができたことが確認された。

- ・【取組1】「地域でつながる日本語教室」においては、日本での生活を円滑に行うために必要な日本語コミュニケーション能力の向上、地域社会で生活するために必要な行政・生活情報の提供、地域住民同士がつながる場の提供、地域の外国人支援活動・多文化共生を推進するための基盤作り、という点において一定の成果が認められた。総社市日本語教室における外国人向け体験学習・体験講座の実施は総社市各担当部署（環境課美化推進係、交通政策課、総社市消防本部）、また、その他日本語教室における生活情報・行政情報の提供は、岡山県内の NPO、各種機関・団体（徳真書道教室、(株)いのうえ、茶道講師、高杉こどもクリニック）との連携により行った。
- ・【取組2】「地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修」においては、外国人支援に関する基礎的知識の習得、外国人受講者の日本語学習をサポートする実践的な方法の習得、地域の外国人支援活動・多文化共生を推進するための基盤作りという点において一定の成果が認められた。外国人支援に関する基礎的知識の教授においては、神戸 YWCA 学院教授陣・岡山大学教授陣らに協力を仰いだ。
- ・【取組3】「地域コミュニティ連携防災訓練事業」においては、行政と連携し、地域コミュニティの多大なる協力により、多くの地域住民が防災訓練に参加し、日本語教室に通っている外国人住民だけでなく、日頃、日本語教室に通っていない外国人住民の参加もあったことは大きな成果であった。
- ・【取組4】「地域ではぐくむ子育て応援事業」においては、「子育て」に関する情報提供、外国人親子と日本人親子との交流促進・情報交換の場の提供を行うことができ、従来日本人向けに行われている子育て支援事業に外国人親子が参加しやすい工夫をすることで、地域住民に対しても多文化共生・外国人支援意識の向上・啓発を促すことができた。
- ・【取組5】「地域で働く外国人就労者の日本語教育支援に関する調査研究事業」においては、外国人を多く雇用する企業の人事担当者と直接話をするのができ、外国人従業員の雇用に関する様々な情報を得ることができた。今後の行政との連携や日本語教育支援に関するニーズについて具体的な提案が出されたことは大きな成果であった。

(3) 地域における事業の効果、成果

- ・【取組1】「地域でつながる日本語教室」においては、地域に暮らす外国人住民が日常生活に必要な日本語の習得やコミュニケーション能力の向上を図りながら、日本人住民との交流を通じて実践的な日本語の運用能力を身につけるとともに、日本の文化・習慣および医療・福祉・教育・防災などの行政情報を得、外国人住民の自立と積極的社会参加を促すこと、【取組2】「地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修事業」は、日本語教室の開設・運営にあたり、地域住民を対象に、外国人住民の日本語学習を生活支援の一環としてサポートする人材の育成を行うとともに、外国人住民の自立や積極的社会参加を促す意義や重要性を働きかけながら、多文化共生社会への意識啓発・意識醸成を行い、継続的な外国人支援体制を地域に根付かせるための基盤作りを行うこと、【取組3】「地域コミュニティ連携防災訓練事業」は、外国人住民に対し防災訓練へ参加する機会を提供し、外国人住民の立場に立った防災知識の習得と災害時のより実用的な日本語習得を目指すとともに、日本人住民と日常からの「顔が見える関係づくり」を行い災害時要支援外国人住民を減少させるとともに、日本人住民に対して外国人支援意識の向上・啓発を図ること、【取組4】「地域ではぐくむ子育て応援事業」は、市内の保育・子育て NPO 法人との連携により、子育て世代の外国人保護者と子供を対象に、同世代の親子が集まる交流の場に参加する機会を提供し、子育てに関する日本語の習得を目指すとともに、日本人保護者と子供等との交流の場を通じて、地域に暮らす住民として子育ての悩みを相談・共有することで、外国人保護者の子育てに対する不安を緩和・解消し、地域全体で子どもの健やかな成長を見守り、子育て

を応援すること、【取組5】「地域で働く外国人就労者の日本語教育支援に関する調査研究事業」は、外国人住民を雇用している(今後雇用を予定している)企業と、日本語教育支援という観点から協力体制の構築を模索するものである。

- ・【取組1】【取組2】に加え、【取組3】【取組4】を行うことにより、日本語教室に来ることのできない外国人住民に対して、日本人住民との交流の場を提供することができた。さらに【取組5】を行うことにより、外国人住民を雇用している(今後雇用を予定している)企業と日本語教育支援という観点から協力体制の構築を模索、今後の【取組1】【取組2】等との連携を図る。この5つの取り組みすべてが「総社市地域参加型生活サポート日本語教育事業」として有機的に繋がり関連し合い、総社市に暮らす地域住民が外国人住民の生活サポートの一環としての日本語教育に参加することで、地域の多文化共生施策を推進するとともに、継続的な外国人支援体制を地域に根付かせるための基盤作りとシステム構築に寄与するものとする。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果

- ・本事業すべての取り組みにおいては、コーディネーターである岡山大学大学院准教授が、事業主体である総社市との連携において総合統括・コーディネートを行い、各取り組みにおいては、総社市各担当部署(環境課美化推進係、交通政策課、総社市消防本部)との連携により行う外国人向け体験学習・講習会の実施、岡山県内のNPO、各種機関・団体(徳真書道教室、(株)いのうえ、茶道講師、高杉こどもクリニック)との連携による生活情報・行政情報の提供、総社市地域コミュニティ連絡協議会と総社ブラジリアンコミュニティ&インターナショナルフレンズとの連携による国際交流イベントの開催・地域コミュニティ連携防災訓練事業の実施、総社市内保育・子育てNPO法人との連携による子育て応援事業の実施のほか、岡山県内および近隣地域の日本語教室・日本語教育専門家との情報交換・交流活動・相互連携等については以下の通りである。

■日本語教室視察

- ・文化庁スタートアッププログラム採択団体：熊本市3名・鳥栖市2名(平成28年11月27日)
- ・文化庁：2名(平成29年2月5日)

■岡山大学(岡山大学生による日本語教室見学・日本語学習者との交流)(平成28年11月6日)

■(公財)全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所(JIAM)での講義

- ・平成28年度第1回「多文化共生の地域づくりコース」(平成28年8月31日：担当科目「日本語教育」)
- ・平成28年度第2回「多文化共生マネージャー養成コース」(平成29年1月18日：担当科目「地域づくりの手法」)

■外国人集住都市会議「とよはし2016」への出席(平成29年1月31日)

■コーディネーターである岡山大学大学院准教授との共同調査研究「総社市における多文化共生推進施策に関する意識調査報告書」の刊行・総社市HPでの公開(平成28年6月)

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

- ・事業の周知・広報は総社市ホームページ、広報誌「そうじゃ」、外国人向け広報誌、総社ブラジリアンコミュニティ&インターナショナルホームページ、Facebook等で行った。
- ・事業周知の一環として、日本語教室パネル展示を総社市役所本庁舎ロビーに加え、10月1日に開催したSOJA INTERNATIONAL FESTA会場、総社市図書館、市内外の公民館、地元信用金庫本店ロビーにて行った。

(6)改善点, 今後の課題について

- ・日本語教室に来ることのできない外国人への日本語学習支援:日本語教室の存在が地域社会に徐々に周知され始め,「地域住民同士がつながる場」として機能し始めたことは事業の大きな成果ではあるが,一方で,日本語教室に来たくても来られない外国人住民や,地域社会で暮らしていくうえで日本語教育が必要であると考えられるにも関わらず日本語学習をしない(できない)外国人住民がいる。昨年度に引き続き【取組3】【取組4】を行ったが,この問題の解決に向け,今後も継続して考えていきたい。
- ・今年度初めての試みとして,【取組5】地域で働く外国人就労者の日本語教育支援に関する調査を行った。今後も技能実習生の増加がしばらく続くと考えられるため,外国人就労者の問題について,企業と行政とが日本語教育支援という点での連携・協力体制の構築について検討していきたい。

(7) その他参考資料

- ・平成 28 年度総社市版「生活者としての外国人」に対する日本語教育カリキュラム
- ・日本語教室受講者用募集チラシ
- ・日本語学習サポーター育成研修受講者募集チラシ
- ・日本語教室受講者用中間アンケート結果
- ・日本語教室受講者用最終アンケート結果
- ・日本語学習サポーター用中間アンケート結果
- ・日本語学習サポーター用最終アンケート結果
- ・日本語指導者用中間アンケート結果
- ・日本語指導者用最終アンケート結果
- ・地域コミュニティ連携防災訓練事業チラシ
- ・地域ではぐくむ子育て応援事業チラシ